

千葉大学「未来型公正社会研究」第5回国際シンポジウム 2018.12.16 国際文化会館講堂
グローバルな福祉社会の構想力～東アジアの介護・ジェンダー・移民
コメント： 久本 憲夫 京都大学教授(大学院経済学研究科)日本学術会議連携会員

1.高齡化先進社会・日本の介護に関する論点

(1) 介護労働の社会化・市場化・準市場化？

管理的制度 VS 自由主義市場

2つの軸： 責任… 家族 社会
対応… 市場 準市場 直接給付

(2) 介護労働力をどう確保するか

- 日本は移民・難民を基本的に受け入れないという政策を一貫してとっている。
- しかし、介護については、激しい人手不足だが、低賃金なので、何とかして受け入れようとしている

2.介護分野での外国人労働受け入れ

(1) 受け入れのパターン・・・現状の人数は？どのような受け入れが良いのか？

- ①従来のEPA（経済連携協定）・・・大きな問題はないと思われるが、低賃金の介護業界での、ハードルの高い制度に人が集まっているか？
- ②「留学」（日本語学校、介護福祉士養成施設（専門学校））で週28時間までアルバイト？
- ③技能実習生、そして「特定技能1」・・・「職業教育」という名目の低賃金「一時滞在労働ビザ？」
- ④日系人、日本人の配偶者など

移民を正面から受け入れるべきか

(2) 感情労働に対応できるか、するにはどうしたらよいか？

- 被介護者・被介護者の家族によるハラスメントにどう対応するか
- 日本人でも困難なのに、文化の異なる社会の人々にとって、どの程度軋轢が生じるか。解決策は？
- 外国はうまく対応できているのか？

3.高まる「地域」への期待・負荷と弱体化する「地域」

(1) スローガンは、「家族か施設」から、「在宅で地域」へ。地域包括支援センターへの期待

しかし、地域での相互扶助力は疲弊している。

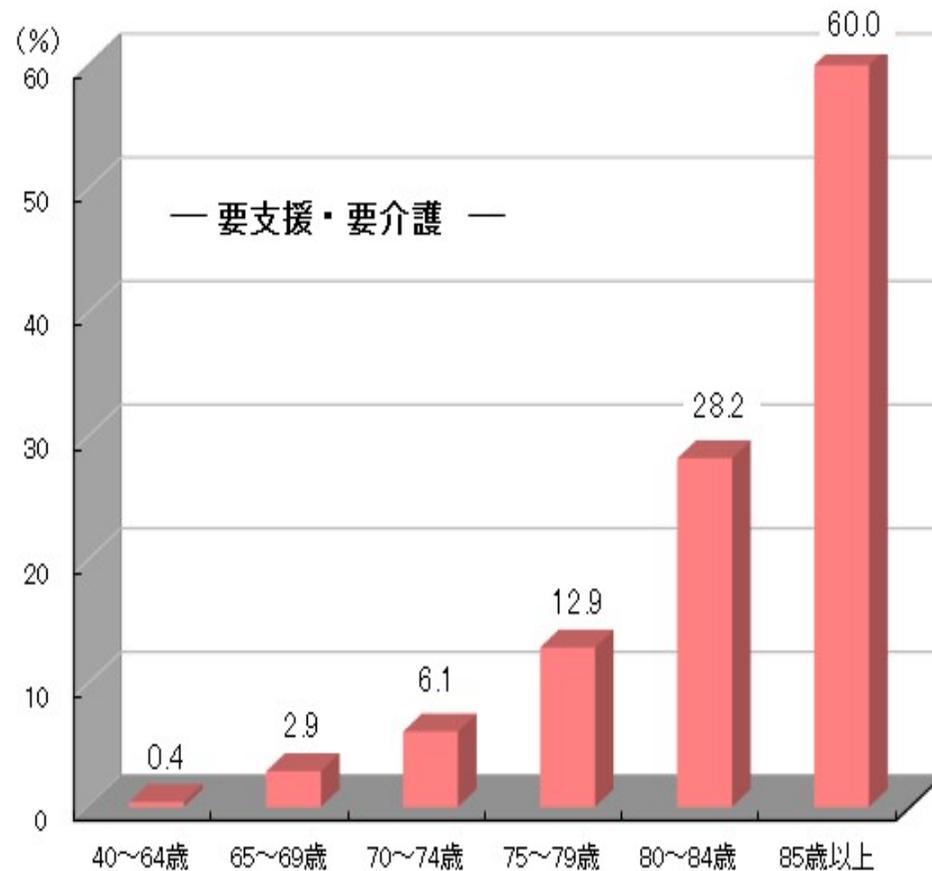
- 新しいモデルが必要ではないか。

(2) 元気な老人による、要介護老人の介護

- 家庭内「老々介護」から、社会的「老々介護」へ
- 元気な老人は少なくない。ボランティアではない、有償の仕事として。

(3) 介護補助装置の充実・技術開発の重要性

年代別人口に占める要支援・要介護認定者の割合



- 要介護者の発生率は、左図のとおり。
 - 年齢とともに、自分の世話だけでいっぱいの人も増えるだろうが、
 - 少なくとも多くの70代は、介護者として活躍できる。
-
- 出所：生命保険文化センターHP
 - <http://www.jili.or.jp/lifeplan/lifesecurity/nursing/2.html> (2018.12.14アクセス)
 - 原資料は、厚生労働省「介護給付費実態調査月報」、総務省「人口推計月報」の各平成29年6月データ